

キャラクター名	プレイヤー名
岩代 正太郎	

シンドローム	ブラム=ストーカー パロール	ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	小学生
オプション		年齢	12歳(自称)(実質25歳)	性別	♂
覚醒	感染	衝動	飢餓	初期侵食率	28%
出自	安定した家庭	経験	心の壁	邂逅	思い出

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	25
肉体	1	0	0			1	行動値	11
感覚	3	1	0			4	(非装備時)	11
精神	3	0	0			3	戦闘移動	16
社会	1	0	0			1	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		RC	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
クロスボウ	射撃	4r-1		2		同エンゲージに攻撃不可。
"ピクシー・ホロウ"	射撃	14r-1		20		同上。侵蝕15。HPを10点消費。①②③④⑤。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費	
D: 屍人	P	N			
D: 古代種	P	N			
メヌア	P	庇護	N	不安	
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	4	残り財産P:	0		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
滅びの一矢	1	2	メジャー	武器	-	射撃	-	
効果:	ダイス+ (LV+1) 個。HP2点を消費。							
コンセ:ブラド	2	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果:	C値-LV。							
始祖の血統	2	4	メジャー	-	-	シンドローム	100↑	
効果:	ダイス+LV*2。HPを3点消費。							
ブラッドバーン	2	4	メジャー	-	-	シンドローム	80↑	
効果:	攻撃力+LV*4。HPを5点消費。							
不死者の恩寵	1	5	クリンナップ	至近	自身	自動		
効果:	HPを (LV+2) D+【肉体】点回復する。戦闘外では1シーン1回。							
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果:	1シナリオ1回。相手の判定の直前に宣言。その判定を失敗にする。ただし、自動成功は不可。							
グラヴィティガード	2	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果:	ガード+ (LV) D。							
斥力障壁	2	2	オート	視界	単体	自動	-	
効果:	1ラウンド1回。HPダメージ適用時に宣言。ダメージを- (1D+LV*3) する。							
巨人の斧	1	3	メジャー	武器	-	白兵、射撃	-	
効果:	攻撃力+LV*3,ダイス-2個。							
フラットシフト	1	0	メジャー/リアク	-	-	-	-	
効果:	1シナリオ1回。あらゆるメジャー、リアクションと組み合わせ可能。組み合わせた判定での侵蝕値合計を0にする。							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

始まりは15年前。通っていた小学校がジャームによるテロの対象となり、正太郎はその事件に巻き込まれる。現場に駆け付けたUGNエージェントたちによって、大きな被害が出る間隙のところで主犯のジャームは討伐されたが、この際の余波から感染していたレネグイドウィルスが覚醒。小学3年生にして突如、非日常の世界へと足を踏み入れることになったのである。覚醒後は保護されUGNチルドレンとなるも、本人の希望もあって表面上は以前と同じような学生生活を続けることが許された。一方で、まだ小さな子供であるという点に目を着けられ、敵の警戒心をうまく掻き潜れる尖兵として度々レネグイド事件に駆り出された。彼にとっての転機となるのは、オーヴァードとなってから3年後の小学6年生の終わりの時。初めての自分の卒業式の、その翌日。朝目が覚めると、岩代正太郎の肉体は小学1年生に相当する状態まで時間が巻き戻ってしまっていた。不幸中の幸いとして記憶の喪失は逃れられたものの、異常事態によりUGNは彼を家族から隔離する。一月ほどの検査の結果、この若返りは彼が感染している“古代種”のレネグイドウィルスに起因していると診断された。このように特殊な例は報告されたことがないが、何が起きてもお不思議などないのがレネグイドの恐ろしさだ。研究員の仮説では、正太郎が発症していたシンドロームが、時間の流れを歪めちゃうパロールと遺伝子変化から不老長寿さえ発現させてしまうブラム=ストーカーの二つであった事も、今回の事態に影響を及ぼしているのではないかと推察されている。古代種感染者は通例として発現した瞬間から肉体が歳をとらなくなるとされていて、その事を伝えられた彼は深い絶望の底に叩きつけられたが、それから半年の観察期間を経たときには肉体の成長が確認された。処遇については、正太郎が古代種の感染者であるとの診断結果が出た時点でUGNが両親の記憶を処理してしまっており、レネグイド研究の一環のために彼もUGN研究施設に住み始めることになった。警戒されにくい小学生オーヴァードを起用しての強襲は、既にその有用性が明らかとなっていたことから、彼は再び小学生を1年生から始めるよう判断が下される。二回目の小学校生活は、既に経験してきたことの繰り返しであり、訪れるはずだった中学校生活に期待を膨らませていた彼にとって大きな苦痛となった。しかし、かつての同級生や後輩の話の時折耳にしながらも、正太郎は新しい同級生との日々を積み重ねようと努力していく。そして、二度目の小学校生活にもすっかり馴染み、一度目とは異なる仲間と違う思い出を築き上げた6年間に、ようやく迎えた再度の卒業式。他人よりも遥かに遠回りしてしまっただけど、またこうして明日に期待感を抱ける日が訪れたことの幸せを噛み締めて、12年間の小学校生活に幕を降ろそうとした。だがやはりその翌日。正太郎の肉体は6年という月日を忘れてしまっていた。前回以上の絶望に耐え切れず研究施設から飛び出したが、彼の行く先などもはやあるはずもなく街をただ彷徨うばかり。一日そうして時間を過ごしてしまうと、街中で偶然にも高校生くらいと思しきグループと出会う。楽しみに話をして笑いあいながら、もう大人の歩幅で己のすぐ横を通り越していく数人の男女の横顔に、かつての級友の面影を見つけてしまった正太郎は、その場で衝動的に自殺してしまう。しかし結局死ぬことは叶わないどころか、以前にも増して肉体は死に難いものになった。未来に対する夢も希望も絶たれた彼は、目の前の楽しみだけを追い求めて惰性的な日々を送るだけの人間へと変わる。そして三回目であるという点を利用して、小学校生活という享楽に耽って行く……。